

相愛大学国際化ビジョン（2017）

平成27年8月に「相愛大学国際化ビジョン」を策定し、3～5年を見据えた国際化に関する重点項目と、それぞれの項目における詳細な目標を設定した。その目標を達成すべく、全学を挙げて国際化の促進を図ってきたところである。制定から2年が経過した段階で、設定した各目標について、その進捗状況を確認し、既に目標を達成できているもの、社会状況やニーズの変化により少し方向性を検討し直す必要が生じているもの等を詳らかにし、「相愛大学国際化ビジョン（2017）」を策定し、今後3～5年を見据えた目標として、全学を挙げた取組みを実施することとする。

○外国人留学生受け入れの促進

提携する海外大学からの編入留学生、日本語学校からの1年次入学生を確保し、在学生による「留学生150人」を維持する。

○国際交流の推進と国際レベルの技能の修得

連携協定を締結しているハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジ並びにバンガー大学日本研究所での海外語学研修（サマープログラム）に、定期的に学生を派遣する。

音楽分野においては、学生（大学院生を含む）等の国際的感覚の技能習得に向け、学術交流協定を提携しているフライブルク音楽大学（ドイツ）、ミラノ・G. ヴェルディ音楽院（イタリア）への短期派遣留学、ショパン音楽大学（ポーランド）、ミラノ・G. ヴェルディ音楽院（イタリア）等への夏期講習への参加、臺中教育大学（台湾）との交換留学等を継続して行うとともに、提携大学との演奏会の開催等に努める。

○海外大学との連携の強化

現在、海外の大学とは、アジア、ヨーロッパ等と、計18校と連携協定を締結しているが、平成30年4月の大学院音楽研究科の設置を機に、さらなる音楽分野の充実、文化の交流等を視野に入れた大学等との連携をめざし、5年後までに新たに3校程度の大学との連携協定の締結をめざす。

さらに、提携大学の音楽系教員（本学客員教授を含む）を毎年3名程度招聘し、学生（大学院生を含む）及び地域住民に向けた公開演奏会や、公開レッスンを開催する。また、提携大学との国際的な教育の連携と研究成果の発信に努めるとともに、教職員の交流を促進する。

○外国語教育の充実

外国語、特に英語教育の充実を図るべく、英語のみで行う授業の拡充に加え、学生が英語を用いて積極的にプレゼンテーションやディスカッションを行う等、学生による主体的な学びを重視した授業デザインを、FD研修会等において研修の上導入へと繋げていく。

ICTの活用を積極的に行い、提携先の海外大学教員による、インターネット回線を利用したライブでの動画講義や、eラーニングシステムを利用した動画講義の受講も可能にすることで、学生の語学学修に対する動機づけと英語運用能力の向上を多様な角度から支援していく。

共通科目での授業において、積極的にTOEIC対策を行うと同時に、「moodle」でもTOEIC対策の動画講義や、ライティング・リスニング対策の教材コンテンツ等を搭載し活用させることで、学生の外国語に対する学修支援を充実させる。

○留学生の就職支援

留学生を対象とした就職支援体制を充実させ、就職に関する説明会を年間2回開催する。また、卒業後も日本で就職を希望する学生への個別支援を推し進める。

○地域社会（地域住民・地元企業）と外国人留学生の交流の促進

地域住民と留学生の交流を促進し、各地域自治会や関係団体・企業等での行事への参加、また、本学が主催する大学祭等での留学生が参加する各種イベントに地域住民の参加を促進し、年間2回以上の留学生との直接的な交流を実施する。

○留学生の日本語基礎力の底上げと学生間の異文化交流の推進

留学生を対象として開講されている基礎共通科目の『日本語』『日本語会話』の履修を促進し、留学生の日本語基礎力の底上げを図る。また、「留学生プラザ」を利用した、留学生と日本人学生との異文化交流を促進し、学生間の異文化理解と日本語・外国語のスキルアップを図るための取組みを年間5回以上実施する。

（平成29年9月21日 「相愛大学国際化推進委員会」にて決定）